

2011年7月3日
 学習院大学輔仁会アーチェリー部
 監督 小林 大介
 コーチ 櫻井 陽光

2011年度関東学生アーチェリー男女リーグ戦報告

1 男子チームについて

1-1 男子リーグ戦1部Bブロック結果

1部Aブロック5位

男子リーグ戦1部Aブロック星取表

Aブロック	日本体育	拓殖	明治	慶應義塾	学習院	立教	勝	-	負
日本体育		○3976	○3920	○3899	○3818	○3874	5	-	0
拓殖	●3956		○3969	○3820	○3803	○3868	4	-	1
明治	●3750	●3796		○3755	○3745	○3765	3	-	2
慶應義塾	●3763	●3753	●3723		○3762	○3776	2	-	3
学習院	●3767	●3688	●3735	●3746		○3728	1	-	4
立教	●3611	●3703	●3685	●3614	●3687		0	-	5

・第1戦 拓殖大学戦（5月1日）

学習院（3688） ● - ○ 拓殖（3803）

リーグ初戦であると同時に、王座出場の鍵となる試合であった。全体的に入れ込みすぎのため、硬さが目立ち、実力を発揮できなかった感があった。また、風が強かったため、射を崩し、集中力を保つのに苦労した試合であった。相手校も崩していたが、練習点からの点数の下がり幅が本院の方が大きかった。上位を目指すことの難しさを知った試合となった。

・第2戦 日本体育大学戦（5月8日）

学習院（3767） ● - ○ 日本体育（3818）

王座出場校との試合であったが、これまで練習で取り組んできたことを体現し、攻めの気持ちを持って試合に臨むことができた。序盤に硬さがあったものの、理想に近い形で試合をすることができた。結果的に力負けした感はあるが、1戦目の負けを引きずることなく切替ができており、実力はついていると感じることができた試合であった。

・第3戦 立教大学戦（5月15日）

学習院（3728） ○ - ● 立教（3687）

相手校との実力差があり、前2試合のような緊張感を持って臨むことができなかった。無声応援の会場ということもあり、若干の普段の雰囲気と違う点で戸惑いもあった。30mでは本院の点数は伸びず、相手校に詰め寄せられた。勝てはしたものの、課題の残る試合となった。どんな試合でも、集中力を持続することの重要性を痛感した。逆にそれができれば、更にチーム点が伸ばすことができることについて考えさせられた。

・第4戦 明治大学戦（5月22日）

学習院（3735） ● - ○ 明治（3745）

震災の影響による延期や連戦の疲れが残る中、土砂降りというコンディションにもかかわらず、集中できた試合あった。試合を通じて点差は大体10点以内であり、1射のミスが相手校にリードを許してしまう緊張感の中、チーム全員で1つにまとまることができた試合であった。接戦であったが、30m残り3エンドは僅かに相手校の方がチームアベレージが高く競り負けてしまった。しかし、接戦時の緊張感を経験できた点では、次に繋がる試合となった。

・第5戦 慶應義塾大学戦（6月5日）

学習院（3746） ● - ○ 慶應義塾（3762）

第4戦目同様、実力が近接する相手との試合となった。点差も一進一退を繰り返す展開となった。選手・応援ともに勝利を手にするためベストを尽くした試合であったが、30m残り2エンドで相手校はハイアベレージを継続している一方、本院にミスが出てしまい、非常に悔しい惜敗を喫する結果となった。最後の最後まで勝負強さという点では、相手校が一枚上手であった。

1-2 男子リーグ戦1部・2部入替戦（6月26日）

・入替戦4校中第1位で、1部残留

男子入替戦結果

順位	大学名	リーグ戦5戦結果	50m	30m	Total	入替戦結果
1位	学習院大学	1部Aブロック5位	1769	1993	3762	1部残留
2位	東洋大学	1部Bブロック5位	1739	1966	3705	1部残留
3位	東京大学	2部Aブロック2位	1675	1957	3632	2部残留
4位	上智大学	2部Bブロック2位	1710	1914	3624	2部残留

第 53 代最後の試合であったが、データ上、他の大学との実力差もあることから、いい意味で余裕を持って試合に臨むことができた。非常に良い緊張感とリラックスのバランスが取れた状態で 50m 1 エンド目から射つことができた。相手校にリードを許す場面はほぼ皆無であった。これまでの反省点を生かし、試合の最後まで集中力を持続することができた。上位 6 名の下位の選手が踏みとどまり、チーム点を支えた。また、チーム一丸となり、全員で楽しむことのできた試合でもあり、その意味で集大成と言える試合となった。

1-3 総評・展望

2011 年度リーグ戦については、昨年度のリーグ戦におけるチームの主力であった新 3・4 年生更なる実力をつけて臨むことが期待されていた。モチベーションも高く、チーム点も伸びており、チーム作りも上手くいっていたと思う。震災の影響で、リーグ戦の開催自体は遅れはしたものの、このチームにリーグ戦を戦う機会を与えてもらったことは、本当に良かったと思っている。

リーグ戦の点数を見てみると、チーム点数的にも、昨年度のチーム平均点が 3,707.6 点 (617.9 点平均) であったのに対し、本年度のチーム平均点は、3,732.8 点 (622.1 点) であり、レベルアップはしていると言える。しかし、結果は 1 部リーグ第 5 位であった。昨年のリーグ戦第 4 位のチームよりも平均点数が低いこと、練習点では、3,800 点以上出すことができるのに、試合においては、最高点が 3,767 点であったところを見ると、本番でパフォーマンスを発揮しきれない点で、もったいなく、技術的にまだまだ未熟であることは否めない。

本年度の目標は、王座決定戦出場であったが、王座決定戦に行くためには、今年は 3,890 点平均程度必要であった。昨年と比較すると 80 点以上上がっており、関東男子 1 部リーグのレベルが格段に上がっていることを感じる同時に、本院の実力ではまだまだ王座決定戦には遠いということを痛感した。

また、個々の実力については、射のタイミング、ライン取りなど、改善されてきており、点数に結びついている選手もいる。本院の上位を射つ選手も更なるレベルアップを果たしており、50・30m で 660 点以上出したことのある選手が何人もいる。

しかし、個人で一般の大会に出場するようになり、試合経験も積んできているが、まだ結果に結びつくに至っていない。ターゲット競技で全日本選手権や国体・インカレに出場できた選手がいないので、そうした大会に出場した選手を擁する大学との間には、点数・経験・自信の点で溝が開けられている。はずした後の切替も上手くない。特に大きな大会の場合、プレッシャーがかかる場面があるが、そうしたプレッシャーを力に変えて行ける選手が勝ち残ってゆくのだと思う。引き続き試合経験を積み、プレッシャーをはね退ける力を培って欲しいと考えている。プレッシャ

一を力に変えることができれば、試合でも良い緊張感を持って臨むことができ、自分のパフォーマンスを発揮できるはずである。

来年のリーグ戦においても、王座決定戦出場を目標にするが、冒頭にも述べたように、今まで以上に点数を伸ばしていかなければ、目標達成は覚束ない。また、主力の4年生が抜けてしまうが、その穴埋めをするため、1・2年生が頑張らなければならない。更なるレベルアップを目指し、弛まぬ努力をし、妥協せず、チーム全体で盛り上がりて行きたいと考えている。

来年のリーグ戦に向けて、1年間射を磨き、目標達成のため励んで行きたい。

2 女子チームについて

2-1 女子リーグ戦1部Bブロック結果

- ・ 2勝3敗で、1部Bブロック第5位

女子リーグ戦1部Bブロック星取表

Bブロック	早稲田	明治学院	成蹊	中央	学習院	立正	勝	-	負
早稲田		○2499	○2448	○2527	○2514	○2541	5	-	0
明治学院	●2408		●2442	○2347	○2382	○2439	3	-	2
成蹊	●2288	○2444		○2373	●2359	○2334	3	-	2
中央	●2312	●2306	●2359		○2355	○2368	2	-	3
学習院	●2352	●2255	○2383	●2310		○2272	2	-	3
立正	●2125	●1586	●1986	●2136	●1915		0	-	5

2・3位決定戦 2位 明治学院 2450 - 3位 成蹊 2413

4・5位決定戦 4位 中央 2403 - 5位 学習院 2366

・ 第1戦 立正大学戦（5月1日）

学習院 (2272) ○ - ● 立正 (1916)

風が強く雨も降る中の試合となった。風自体には上手く対応することができず、自分たちのパフォーマンスを発揮することはできなかったが、それでも何とか自分の射をしようと試みた。最後まで気持ちを切らすことなく終えることができた試合であった。

・ 第2戦 中央大学戦（5月8日）

学習院 (2310) ● - ○ 中央 (2355)

50mの点数が伸びず、点差を引き離された。射のタイミングや射ち終わりの集中など、射のポイントが今ひとつ希薄で、グルーピングが小さくならなかった。コンディションとしては、暑くなっている時期であり、暑さ対策などが必要であった。

・ 第3戦 早稲田大学戦（5月15日）

学習院 (2352) ● - ○ 早稲田 (2514)

相手校は昨年の王座決定戦出場校であったが、モチベーションを下げることなく試合をすることができた。課題あった50m1エンド目の入りも上手くいき、ベスト4で50点近いアベレージを出すことができた。しかし、50mの割りに30mの点数が伸びず、射ち終わりの張りの強さなど、課題の残る結果となった。

・ 第4戦 明治学院大学戦（5月22日）

学習院 (2255) ● - ○ 明治学院 (2328)

雨の中の試合であったが、雨に対する対策が甘すぎた。水を吸う服装であったり、タオルすら持ってきていない選手もあり、準備を怠ったと言わざるを得ない。当然、射のパフォーマンスも下がり、50mで90点以上のリードを奪われた。しかし、30mに入ってから落ち着いて射つことができ、射のタイミングも合ってきて、相手が苦戦する中、点差を詰めることができた。

・第5戦 成蹊大学戦（6月5日）

学習院（2383） ○ - ● 成蹊（2359）

本院が破れると5位確定となってしまうことから、何としても勝って4・5位決定戦に進出するため、モチベーションを上げて試合に臨んだ。また、相手校にとっても、本院に勝てば王座決定戦出場切符を手にする事ができる試合であったため、両校とも落とせない試合であった。その中で本院は気負うことなく、50m 1エンド目からリズムに乗ることができ、50m 5エンド目で点数を落としたものの、最後まで良い流れで射ち続けることができた。雰囲気も良く、本院の理想に近い形で試合をすることができた。

2-2 女子リーグ戦順位決定戦（6月12日）

学習院（2366） ● - ○ 中央（2403）

序盤から非常に気負いがあり硬さの目立つ試合であった。そのため外しが目立ち、50mで点数が伸びず、40点のビハインドを取られた。しかし、30mではある程度射も改善され、相手校から点差を離されることはなかった。（30mでは本院の方が点数が高かった。）50mでの遅れが悔やまれる試合であった。

2-3 女子リーグ戦1部・2部入替戦（6月26日）

・入替戦4校中第3位で、2部降格

女子入替戦結果

順位	大学名	リーグ戦5戦結果	50m	30m	T o t a l	入替戦結果
1位	立 教 大 学	1部Aブロック5位	1156	1312	2468	1部残留
2位	青 山 学 院 大 学	2部Bブロック2位	1100	1292	2392	1部昇格
3位	学 習 院 大 学	1部Bブロック5位	1087	1280	2367	2部降格
4位	一 橋 大 学	2部Aブロック2位	1055	1275	2330	2部残留

序盤から良い緊張感を持ち、攻めの気持ちが見られる試合であった。接戦ということもあり、点差は気になったが集中して試合に臨むことができた。30mの4エンド目で本院にミスが出てしまい、その分を取り戻すことができず、また、それをチ

ームとして引きずってしまった感があり、競り負けてしまった。しかし、チームのベスト4は全員が2年生であり、2年生の力が確実についてきていることを感じることでできた試合であった。

2-4 総評・展望

王座決定戦出場を目標に掲げ、練習に取り組んできたが、結果、1部Bブロック5位、入替戦の結果、2部降格という敗北を喫したことについて、悔しさを感じると同時に、応援して下さった諸先輩方に申し訳なく思っているところです。

リーグ戦の結果を見ると、去年はチーム平均点 2,384.0 点 (596.0 点平均)、今年 はチーム平均点 2,314.4 点 (578.6 点平均) であった。コンディションが悪かった試合が2試合あったことを考えても、実力を出し切れなかった感は否めない。練習点では2,400点を超えているのに、試合で点数が出ないのは経験不足であろう。

震災の影響もあり、変則的な日程でのリーグ戦となったが、逆に考えれば練習する時間が取れたので、特に2年生の成長が著しかった点は評価できると思う。その点では来年に繋がるはずである。しかし、その2年生頼りで、4年生が牽引する意識が欠如していたことが敗因かもしれない。改善するためには、チーム作りとして、確固たる目標を立て、そのために全員が邁進して、上級生が牽引して行くという本来の形を再確認する必要があると考える。

また、射技面については、肩が上がっている、肘のラインが乗らないなど、「できないから」と妥協するのではなく、何とかできるように改善して、努力していく必要がある。そのためには、時間をかけて射ち込まなければならない。そうした努力なしでは、上達は望めないし、点数も伸びてこない。射技が簡単に身に付く方法はないであろう。継続的な努力が必要なのである。

更に、自らに挑戦して欲しいと考えている。強化練の中でも、「今日はこう射つ。」といったテーマを持ちそのイメージを追求して練習する、2ヵ月後試合に出ると決め、それに合わせて計画を立てて練習していく、いついつまでに何点出す、今日は何点出すなど、やれることはいくらでもあるはずで、ただ漫然として練習するより効果があると思う。

チーム作りや射技向上を基礎からやり直し、自らに挑戦するといったことに取り組み、今回の悔しさを忘れずに練習に励んでもらいたい。特に全員が悔し涙を流すほど悔しかったと思うので、今年、王座決定戦に行きたかった気持ちは本物であったと確信した。

今年の結果は2部降格であったが、本院の目標として「王座決定戦出場」は常に持って欲しい。来年は頑張っても1部昇格までしか行かないかもしれない。しかし再来年こそは、再起を果たし、是非王座決定戦、つま恋で戦って欲しいと考えている。